

【法人の概要】

代表者名	理事長 高野 孫左工門	所管部(局)課	教育庁 生涯学習課		
所在地	甲府市朝気1-2-2	電話番号	055-235-4171		
ホームページURL	<a href="https://www.yamanashi-bunka.or.jp">https://www.yamanashi-bunka.or.jp</a>	E-mailアドレス	<a href="mailto:info-bun@yamanashi-bunka.or.jp">info-bun@yamanashi-bunka.or.jp</a>		
資本金(基本財産)	30,000 千円	設立年月日	平成11年4月1日		
主な出資者等	出資順位	出資者名等		出資額	出資比率
	1	山梨県		15,000 千円	50.0 %
	2			千円	0.0 %
	3			千円	0.0 %
	4			千円	0.0 %
	5			千円	0.0 %
	6			千円	0.0 %
	7			千円	0.0 %
	8			千円	0.0 %
	9			千円	0.0 %
	10			千円	0.0 %
	出資その他	団体(者)		千円	0.0 %
その他			15,000 千円	50.0 %	
			30,000 千円		
設 目 経 緯 概 況 等	文化の香り高い山梨の実現に向け、県民の自発的な芸術文化活動や生涯学習活動を支援し、地域文化の振興と生涯学習を基盤とした生涯設計と社会生活の創造を図るとともに、地域社会の活性化を担う人材の育成に寄与することを目的に、財団法人として設置され、山梨県立県民文化ホール、山梨県県民会館、山梨県生涯学習推進センターの業務を受託してきた。 平成24年4月1日には、公益財団法人として認定を受けている。(法人の目的に「男女共同参画社会の形成促進」を追加。) 現在、指定管理者として、山梨県立男女共同参画推進センター(平成21年度～)、甲斐市双葉ふれあい文化館(平成20年度～)の管理運営を行うとともに、県の委託業務として、山梨県生涯学習推進センター(平成11年度～)、山梨ことぶき勤学院(平成25年度～)、山梨県森林総合研究所「森の教室」(平成26年度～)、山梨近代人物館(平成26年度～)の運営を行っている。				

【主要事業の概要】

事業名	内容	事業費(単位:千円)		
		令和元年度	令和2年度	令和3年度
事業1 男女共同参画推進事業	男女共同参画社会の実現に向けて各種講座を開催し普及啓発を図るとともに、女性の一般的な問題、悩みに対して電話及び面接による女性総合相談や配偶者からの暴力に関する相談を行う。	144,580	141,838	139,961
事業2 芸術文化振興事業	甲斐市双葉ふれあい文化館において芸術鑑賞事業や市民芸術文化活動の支援等を行う。	47,573	44,790	49,109
事業3 生涯学習推進事業	県民の生涯学習を総合的に支援する中核施設として、講座の開催や各種事業を実施するとともに学習活動や交流の場として交流室の貸出と支援を行う。	40,695	41,084	42,018

【組織】

	年度	令和 2 年度					令和 3 年度					令和 4 年度						
		職 パ 員	県 職 員 派 遣	県 職 員 兼 務	県 O B	そ の 他	職 パ 員	県 職 員 派 遣	県 職 員 兼 務	県 O B	そ の 他	職 パ 員	県 職 員 派 遣	県 職 員 兼 務	県 O B	そ の 他		
各年度体制	理事(常勤)	1			1		1			1		1			1			
	理事(非常勤)	10		2		8	9		1		8	9		1		8		
	監事(常勤)	0					0					0						
	監事(非常勤)	2			1	1	2			1	1	2			1	1		
	評議員	11		1		10	10		1		9	11		1		10		
	計	24	0	0	3	2	19	22	0	0	2	2	18	23	0	0	2	2
職員	管理職	5	5				5	5				4	4					
	一般職員	11	11				11	11				11	11					
	臨時職員	6				6	5				5					5		
	非常勤職員	23			6	17	22			7	15	18			7	11		
	計	45	16	0	0	6	23	43	16	0	0	7	20	38	15	0	0	7
令和4年度 プロパー職員 の年齢構成 (令和5年4月1日現在)	年齢	～20	21～30	31～40	41～50	51～60	61歳以上	合計						平均年齢	平均年収			
	男性			4		5		9	役員勤				※	(千円)				
	女性		1	1	4			6	職員勤				※	(千円)				
	合計	0	1	5	4	5	0	15	職員勤				44.3	(千円)				

※個人の年齢、年収が容易に推定できるため不記載

## 【経営の状況】

(単位:千円)

項 目		令和元年度	令和2年度	令和3年度	増減
正味財産の状況	基本財産等運用益	3	3	0	△ 3
	受取会費・受取寄付金	0	0	0	0
	受託事業収益	264,425	266,136	264,071	△ 2,065
	自主事業収益	21,072	11,479	16,124	4,645
	受取補助金等	0	0	0	0
	その他の収益	3,378	2,615	3,031	416
	経常収入 計	288,878	280,233	283,226	2,993
	事業費	282,930	276,053	278,477	2,424
	うち人件費	163,624	161,155	161,829	674
	管理費	764	740	705	△ 35
	うち人件費	382	377	373	△ 4
	経常支出 計	283,694	276,793	279,182	2,389
	当期経常増減額	5,184	3,440	4,044	604
	経常外収入	0	0	0	0
	経常外支出	533	511	680	169
	当期経常外増減額	△ 533	△ 511	△ 680	△ 169
	当期一般正味財産増減額	4,651	2,929	3,364	435
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	
正味財産期末残高	107,852	110,781	114,145	3,364	

(単位:千円)

項 目		令和元年度	令和2年度	令和3年度	増減
財務状況	流動資産	106,025	106,186	59,654	△ 46,532
	固定資産	30,170	35,585	85,055	49,470
	資産 計	136,195	141,771	144,709	2,938
	流動負債	28,312	30,960	30,534	△ 426
	うち短期借入金	0	0	0	0
	固定負債	30	30	30	0
	うち長期借入金	0	0	0	0
	負債 計	28,342	30,990	30,564	△ 426
	正味財産	107,853	110,781	114,145	3,364
	うち基本財産への充当額	30,000	30,000	30,000	0
うち特定資産への充当額	0	5,450	9,955	4,505	

(単位:千円)

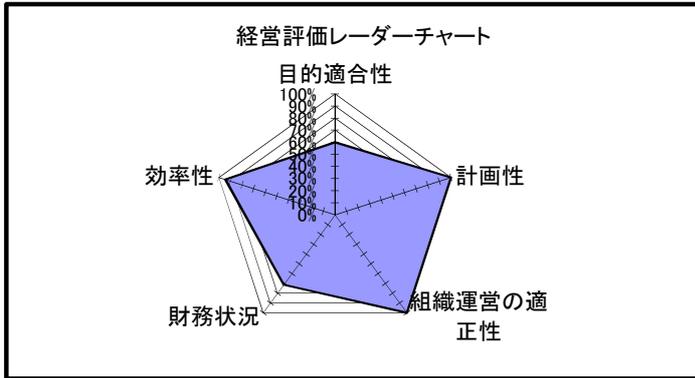
項 目		令和元年度	令和2年度	令和3年度	増減
県の財政的関与の状況	負担金	0	0	0	0
	人件費補助金	0	0	0	0
	人件費以外の補助金	0	0	0	0
	運営費補助金	0	0	0	0
	事業費補助金	0	0	0	0
	補助金 計	0	0	0	0
	人件費委託金	149,149	146,671	147,568	897
	人件費以外の委託金	78,017	79,755	78,483	△ 1,272
	委託金 計	227,166	226,426	226,051	△ 375
	県支出金 計	227,166	226,426	226,051	△ 375
	県の財政的関与の割合(%)	78.6	80.8	79.8	△ 1.0
県貸付金残高	0	0	0	0	
県債務負担実際残高	0	0	0	0	

## 【県の財政的関与の状況(令和3年度)】

項目	内容・目的・金額
負担金	なし
補助金(運営費)	なし
補助金(事業費)	なし
委託金	生涯学習推進の拠点施設である県生涯学習推進センターの運営(41,469千円)、男女共同参画推進の拠点施設である県立男女共同参画推進センターの管理運営(134,863千円)、山梨ことぶき勸学院の運営(18,102千円)、県森林総合研究所「森の教室」の運営(13,266千円)、山梨近代人物館の運営(18,351千円)
県債務負担実際残高	なし

【自己評価・評点集計】:(経営評価算出表により、法人自らが評価した結果を記入)

評価の視点	評価ポイント	評価項目数	満点	評点	得点率
目的適合性	出資法人が当初の設立目的あるいは公益目的と適合した業務を行っているかを問う視点	3	10	6	60.0%
計画性	出資法人が長期的ビジョンを持って計画的に事業運営に取り組んでいるかを問う視点	3	10	10	100.0%
組織運営の適正性	組織・人事・財務等の内部管理体制が適切に整備、運用され、かつ情報公開による透明性の確保が適切であるかを問う視点	3	10	10	100.0%
財務状況	出資法人の経営の安全性や収益性を問う視点	7	42	30	71.4%
効率性	出資法人の組織の管理運営上における人的・物的な経営資源が有効活用されているかを問う視点	5	18	17	94.4%
合 計		21	90	73	81.1%



【警戒指標数】

目標達成度	
正味財産増減	
流動比率	
借入金依存率	
債務超過	
県の将来負担見込	
回収不能債権	
県の債務処理補助等	
公益認定基準抵触	

【出資法人の自己評価】:(各評価の視点毎に、法人自らによる分析・検証の結果及び対応策を記入)

目的適合性	<p>施設の利用者数・利用回数に関し、それまでは連続して全体実績が目標値を上回っていたが、新型コロナウイルス(以下「コロナ」という。)感染拡大防止に伴う閉館・人数制限等の影響により、コロナ前に設定した目標を3期連続で下回る結果となった。</p> <p>今後もコロナの影響の長期化が懸念されるものの、各施設とも魅力ある事業等の実施に努めるとともに、特に男女共同参画推進センターの利用者数、利用回数の増加を重点的に推進していく。</p>
計画性	<p>令和元年度から4年度までを計画期間とする経営計画を策定しており、この計画に則って年度における具体的な事業計画を作成し、計画的な事業運営に取り組んでいる。</p>
組織運営の適正性	<p>ほぼ毎年、定年退職する職員がいることから、安定した組織体制の維持に向けて中長期的な視点で人事異動、人材育成等を行っている。</p> <p>県の監査等において指摘された事項については、職員研修や定例会議の場での周知徹底、「チェック表」による確認を行い、再発防止に努めている。</p>
財務状況	<p>安定した法人経営につながるよう収支のバランスを見ながら、利用者サービスの向上や経費の削減に努めている。また、借入金はなく、適正な財務状況を維持している。</p> <p>なお、資産と負債の流動比率に関し、若干数値が悪化したように見えるが、これは令和3年度より流動資産の約4割を占めていた定期預金につき、期間満了まで1年を超えるため、固定資産として計上しなおした影響によるもの。</p> <p>収支状況の恒常的なチェック等により収支相償になるよう努めていく。</p>
効率性	<p>必要最小限の人員で事業の実施や施設の管理を行うとともに、管理費の削減についても職員間で徹底し、取り組んでいる。</p> <p>職員一人当たり施設等利用人数に関し、コロナ感染拡大防止に伴う閉館・人数制限等の影響により、令和2年度の対前期増加率がマイナスとなったものの、多様な主体に向けた講座開催、PR活動等による利用者増により令和3年度はプラスに改善した。</p> <p>引き続き、利用者増加に向けた取り組みを一層強化していく。</p>
総合的評価	<p>経営計画に基づいて、法人の設立目的に合った計画的かつ健全な組織運営を行っている。</p> <p>各施設とも、県民ニーズに応じた事業等を実施するとともに、より効率的な施設管理に努め、公益財団法人としてふさわしい経営を行っていく。</p>



対応策	<p>引き続き、多様な県民ニーズの的確な把握と、その分析に基づいた積極的な事業展開、質の高いサービスの提供等により、利用者数の増加を図っていくとともに、適正かつ効率的な組織運営に努めていく。</p>
-----	---

【法人担当部局の所見】：(法人所管部局による各評価の視点毎の分析、評価)

目的適合性	<p>男女共同参画推進センター及び双葉ふれあい文化館の指定管理業務、生涯学習推進センター、ことぶき勸学院、森の教室及び山梨近代人物館の事業を受託し、法人の設立目的に沿った事業が行われた。</p> <p>令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のための休館・休止や定員削減等の対応により、利用者数及び利用回数が目標を下回った。いずれの施設についても、上記の事情のため、数値のみでの判断は難しく、今後も感染症に対する新しい生活様式に即した施設のあり方や、若年層の利用増加を目的とした積極的なオンライン活用等を検討していくことが必要である。</p>
計画性	<p>経営計画に基づいた管理運営が実施された。</p> <p>現計画は令和元年度から4年度までであり、法人の経営状況を検証し、今後の事業活動、組織運営が適切に行われるよう、社会情勢等も加味しながら、必要に応じて見直ししていく。</p>
組織運営の適正性	<p>法人全体で適切な運営がなされるよう、職場研修等を通じて、財務規程だけでなく関係法令・規程等について周知・共有し、職員一人一人が適正な事業執行を行うとともに、複数人による書類確認や、「チェック表」の活用により、適正化に努めている。</p> <p>今後も、職員の退職・異動による、年齢やキャリアバランスを考えた採用や、新規任用職員に対する育成指導を組織全体で行い、事業執行の質を向上させていく必要がある。</p>
財務状況	<p>収支状況は均衡しており、借入金や債務保証は無く、財務状況は概ね安定している。</p> <p>今後も、収支相償の原則を踏まえ、適正な事業実施を進めるとともに、経費の節減を図り、適正な財務状況の維持に努める必要がある。</p>
効率性	<p>管理費について、組織全体で削減する意識を共有し、長期契約・設備省エネルギー化等により必要最小限の支出にとどめる努力を行い、適正化を図っている。</p> <p>前年度に比べ、利用者が増加傾向にはあるが、目標値を下回っており、利用者のニーズを的確に把握し、オンライン等を活用した利用者増加に向けた取り組みを積極的に検討・実行する必要がある。</p>
総合的評価	<p>設立目的に沿って多様な業務運営を実施し、前年度から続く感染症対策の中であるが、経営計画に基づいた個々の施設等の特性を活かした取り組みが行われている。</p> <p>組織運営においては、職員への研修・指導体制の充実を図るなど、適正な組織運営に向けた取り組みが認められる。</p> <p>一方で、利用者数は前年度に比べ増加しているが、いまだに目標値よりも下回っていることから、利用者ニーズの把握に努め、利用者の立場・意見に寄り添ったサービスの提供に取組む必要がある。</p>

【総合評価】：(経営評価委員会、経営検討委員会による総合評価)

総合評価 ランク	<p style="text-align: center;"><b>A</b></p> <p>得点率 81.1 %</p> <p>警戒指標数 0</p>	<p>A 得点率80%以上かつ警戒指標なし</p> <p>B 得点率70%以上80%未満または警戒指標が1</p> <p>C 得点率60%以上70%未満または警戒指標が2</p> <p>D 得点率60%未満または警戒指標が3以上</p>
総合的所見	<p>・令和3年度は、流動資産から固定資産への計上変更(定期預金(経営安定化資金)の満期が1年を超えるため)に伴う流動比率の低下等により、財務状況の評点が低下したものの、比率自体は依然100%を超えており、法人における短期債務の返済能力は担保されている。</p> <p>・収支状況については、自主事業収益の拡大等に伴い、前年度に引き続き黒字決算は維持されている。</p> <p>・一方、男女共同参画推進センターや双葉ふれあい文化館等の令和3年度における職員1人当たり施設等利用人数は対前年度比で24.7%増加する等、効率性は改善しているものの、新型コロナウイルス感染症の影響等により、令和元年度以降、目標数値となる施設等利用人数に届かない状況が続いていることから、今後は目標数値の見直しを適宜図るとともに、新型コロナウイルス感染症対策を講じつつ、利用者数の回復及び利用者のニーズを満たす質の高いサービスの提供に取組み、積極的に施設の利用促進を図っていく必要がある。</p>	



【総合評価に対する今後の対応方針】

<p>・法人の健全な財務を維持していくため、県民等のニーズに沿った取組を更に進めるなど、継続して受託できるよう創意工夫するとともに、新規業務の受託獲得に向けた取組も積極的に実施していく。</p> <p>・各施設の利用者数は、利用状況の分析等に基づく来館促進の取組みにより、令和元年半ばまでは改善傾向が見られたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、令和元年度以降の最終的な実績は目標に届いていない。今後は、目標数値の見直しを適宜行い、適切な感染症対策を講じつつ、県民ニーズの的確な把握とその分析に基づく施設運営・事業等を積極的に展開するとともに、幅広くかつ工夫した広報等により、施設利用の促進に努める。</p> <p>・さらに、今後も経営計画に基づき、これまでの実績や蓄積したノウハウを生かし、常に利用者サービス向上を図りつつ指定管理業務や受託業務に取り組むことにより、健全で安定した経営基盤の確保に努めていく。また、時代に即したデジタル化対応や専門性を高める職員研修など人材育成に積極的に取組み、組織力の強化を図っていく。</p>
---